

令和4年度
尾花沢市議会だより
編集委員会
報告書

尾花沢市議会だより編集委員会報告書

I 行政調査報告

1. 日程及び調査先

日 程：令和4年10月11日(火) ～12日(水)

調査先：秋田県横手市、岩手県雫石町

2. 調査事項

①10月11日(火) 秋田県横手市議会
議会の広報広聴活動について

②10月12日(水) 岩手県雫石町議会
議会広報誌の編集について

3. 参加者 委員長 鈴木 清 副委員長 和田 哲
委員 塩原未知子 委員 星川 薫 委員 菅野喜昭
委員 安井一義 委員 鈴木由美子

4. 報 告

《委員長 鈴木 清》

◎秋田県横手市

- ① 議会改革度調査2021で3年連続秋田県1位、全国では36位となっている。
人口85,253人、議員定数26人、広報分科会7人で編集している。
- ② 議会基本条例第7条(議会広報活動の充実)多様なへ広報手段を活用することにより、多くの市民にとって議会と市政が身近になるよう広報活動に努めるものとする。
- ③ 議会だよりのタイトル変更一堅苦しくなく親しみやすい紙面にするために「議会だより」から「あなたと市議会」に変更。(平成29年4月)
- ④ 表紙に中学校美術部のイラストを掲載しシリーズ化している。
- ⑤ 市議会マスコット「しらとり議員」誕生。紙面で解説やお知らせをしている。
- ⑥ 議会だよりモニター制度一より市民の声を聴き、市民に寄り添った紙面とするため、一般モニター3名・高校生モニター20名と意見交換している。
- ⑦ 市議会紹介FM番組「もっと教えて！横手市議会」を毎月2回放送している。
- ⑧ 編集方針(定例会終了後30日で発行)
 - (1) 世代を問わず見やすい紙面
 - (2) 市民目線でわかりやすい紙面

- (3) 興味を引き出す工夫
- (4) 情報公開の使命を果たす
- (5) 市民と議会双方向の紙面
- ⑨ 巻頭に特集ページを！特集企画をどう決めているのかの質問に、市民は「何を知りたいか」、「議会は何をしてくれるのか」、「どうしてなのか」と思っている。興味を引くもの議会事務局主導でみんなで考えている。ときには漫画のコマ割りを使うこともある。
- ⑩ FM 番組・議会ホームページ・Facebook はどのように作り発信しているか。事務局が中心に行っている。(議員個人の発言ではなく議会の発信となる)
- ⑪ 一般質問は1人半ページだがQRコードが効果的。QRコードで1人1時間の質問を100人を超える人が視聴している。
- ⑫ 常任委員会ではなく特別委員会として「広報広聴委員会」があり、その中に広報分科会(7名)と広聴分科会(7名)がある。広聴分科会は、市民と議会の懇談会、出前授業、中学生議会(Y8サミット)を担っている。
- ⑬ 最後におばなざわ私議会だよりをクリニックしていただきました。
(クリニックでの意見)

- 見開きで見せていて、見やすい紙面だ。
- 表紙写真と裏表紙のインタビューのつながりが良い。
- 写真の位置とキャプションに工夫を。
- 記事内容は市報と議会報の棲み分けに注意。

◎岩手県雫石町

- ① 雫石町は県都盛岡市に隣接し、岩手山・駒ヶ岳を望み、小岩井農場・鶯宿温泉などを目当てに多くの人々が訪れる。人口は15,907人、議員定数16人、編集委員7人。
- ② 昨年4月発行より、リニューアルをしている。本文を横組から縦組に、タイトルのロゴデザインを変更し、議会・議員の視点を伝えるなど、情報を視覚化している。
- ③ 中でも表紙は、「仲良しシリーズ」の写真が秀逸で全国でも最優秀賞を得ており、「しずくいし」の文字が、俳句の季語のように美しい。
- ④ リニューアルがコンテンツの充実へと向かっている。主なものは、一般質問が2ページ3議員、Q&Aで誰が答弁したか明記していること、多世代の住民が登場する3つの連載の充実(「voice」「ふるさとへの便り」「雫石町へようこそ」)、議会からの視点での特集記事を組んでいることなどである。
- ⑤ 住民の反響は？の問いに、「読みやすい議会だよりになった」、「親近感のある議会だよりになった」、「議員が何に力を入れて活動しているか理解できた」の声を紹介していただいた。
- ⑥ 最後に、本市の議会だよりをクリニックしていただいた。

(クリニックでの意見)

- ちゃんとした立派な議会報だ。
- 写真が不足している。写真の位置、キャプションに工夫を。
- 似顔絵が楽しい。(目次に揃えてはどうか)
- 字ばかりの請願は読まないのではないか。
- 議会日誌は、市民には関心がない。
- 特集を毎回載せる努力を。
- 広聴し、住民参加を多く。

II 山形県市議会議長会議会報研修会

1. 日程及び会場

日 程：令和4年11月8日(火)

会 場：米沢市グランドホクヨウ

2. 講 師 山形新聞社編集局次長兼報道部長 松田直樹 氏

3. 演 題 「読みたくなる議会報を目指そう」

4. 参加者 委員長 鈴木 清 副委員長 和田 哲
委員 塩原未知子 委員 菅野喜昭 委員 安井一義

5. 報 告

《委員長 鈴木 清》

新聞の手法を紹介していただきながら、読みたくなる議会報作りのポイントをアドバイスしていただきました。大切なのは次の2点です。

A「議会だより」はどんな役割があり、何のために発行するのかを意識して紙面作りを。

B読まれる紙面の技術は、①記事の書き方・5W1Hの原則・逆三角形・文は短く②見出しの付け方・レイアウト etc.

Bの読まれる紙面の工夫として、「人の名前・顔をたくさん出す」、「身近な人のことが書いてある」、「ためになる」、「楽しい、面白い、深い」そして何より「自分が読みたい、知りたい事が載っていること」だと説明。

Aは、「議会だよりは市民と議会をつなぐ窓である。広報がなければ社会に伝わらない。大切な意思疎通のツールである。社会につながる窓である議会だよりを目指そう！」とまとめられました。最後に13市の議会報をクリニックしていただきました。